

## Ⅱ 詩に対する生徒(中学・高校)の意識

——詩の学習指導を考えるために——

米 山 誠

### 1 詩教材指導の問題点

詩の学習に対する感想、意見を中学生・高校生に書かせてまとめてみたところ、中学・高校ともに圧倒的に多かったのは次の二つのことであった。第一は、「教科書の詩だけでなく、いろいろの種類を数多く紹介してほしい」という類のもの、第二は、「授業で先生の意見をおしつけられたり、解釈を理屈っぽくやられると詩がいやになる」「生徒個人個人の感情を尊重してほしい」という類のものである。この二つの類の意見が、実は、詩の学習指導のあり方に対する根本的な問題点を指摘していると思われる。第一は詩の教材編成に関するものであり、第二は詩の鑑賞指導の方法に関するものである。学習の主体である生徒の多数から指摘された、以上の問題点について、私自身の指導を反省しつつ考えを述べてみたい。

まず、教材の問題については、検定教科書の教材だけでは質量ともに限界があるということであり、教師は生徒の実態に即応した教材の自主編成を積極的に行なわなければならないということである。限られた数と限られた内容の教材だけでは、生徒達の詩に対するさまざまな興味や期待にこたえられるはずがない。また、一般的に、生徒は小説などに比べると、詩に接する機会が非常に少なく、学校で接した詩以外には知らないという生徒が多いことを考えても、教師は適切な教材をできる限り多く紹介する必要がある。

次に、詩の指導方法については、知的な読解指導でなく、生徒の感受性を重んずる鑑賞指導に重点をおかなければならないということである。散文と詩との本質的な差異により、学習指導の方法も当然異なるはずである。生徒の詩に対する興味の有無の理由について調べてみると、中学・高校とも、興味が「ある」「ない」いずれも、その一番大きな理由は、詩が散文とちがって短い形式の文学だからということにかかわっていた。詩に興味をもたせるも失わせるも、この詩の特質の扱い方いかんによるといってもよいであろう。細谷俊夫氏は次のように述べている。「批評的鑑賞の際に従来の教育の誤りはその分析方法を誤って、教材を知識習得(言語の訓練、文法の理解など)の手段とし

てしまったことである。それがために肝心の作品そのものに対する興味が殺がれてしまう危険がある。したがってそれが、たとえば詩ならば、それがだれのために書かれたものか、どういうことを訴えようとしているのか、その詩の背景をなすものは何か、その詩のすぐれている点はどこかというように、分析はあくまでも鑑賞教育の立場において行なわれるべきである。」<sup>(1)</sup>

詩教材の指導に関して、さらに、現代詩人の意見をいくつか引用してみよう。

「詩はよむ人に何かの感動なり美感なりを与えたり読者の心の飢渴をいやすことができ、そこから何かを感じさせればいい。」(阪本越郎)、「詩の鑑賞として一番正当なのは、詩の魅惑性の感能から生じる作品の享受である。……解説や解釈の役割は、詩の魅惑性を知るための感能力を養うことにある。またはそれによってそれまで眠っていた感能力を呼びますことにある」(伊藤信吉)、「詩は理屈で理解するのじゃなくて、ことに現代の詩になると嗅ぎ分けるものです。初めから詩はこわいと思っていて近寄らなかったらいつまでたっても嗅ぎ分ける能力は身につかない。だからもっと近寄っていけば知らないうちにかぎ分ける能力ができてくる」(村野四郎)、「詩の教育というのは作品をたくさん読ませることだと思う。少ない作品を細かく解釈するよりも、たくさん詩を読ませることの方が効果があるんじゃないか」(同)、「わかりにくいという既成概念が、いっそう垣をつくってわかっていいはずのことがわからないことになってしまう場合が考えられる。素人の解釈をみたりきいたりしていると、一体に、詩に重大な意味をつけすぎる場合が多いようだ。牽強付会な、作者が思ってもいなかった解釈のしかたをしているのであって、かえってびっくりする場合もある」(金子光晴)<sup>(6)</sup>

以上、要するに詩は詩として扱わなければならないということであり、詩の本質をまず認識しておくことが大切であると思う。

さて、以上のような認識の上に立って実際の指導に当たるとき、具体的にはどうすればよいのかということが問題である。たとえば、教材選択の基準や編成の方法などをどうするか、また、朗読や詩の意味の説

明, 創作の指導などをどうするか, 授業の過程や形態, をどうするか等, さまざまのことを実践の中で体得していかなければならない。そのためには, 教師個人個人の実践や研究にとどまらず, 集団的に相互の経験や問題点を交流し合い研究し合っていくことが必要である。そうしてこそ実践に裏づけられたゆたかな教材や指導法を自分達のものとしていくことができると思う。私としては, まず生徒の詩に対する興味・関心の実態を知る必要を感じて, アンケートを実施してみたのでその結果を次に報告してみたい。

〔注〕(1) 細谷俊夫「教育方法」(岩波全書) P.187

(2) 阪本越郎「現代詩はどうして難解か」

(明治書院「古典と現代」No1) P.17

(3) 伊藤信吉「解釈と鑑賞—そして享受」

(筑摩書房「国語通信」No90) P.4

(4) 村野四郎・阪本越郎・木俣修 座談会「詩歌教材をめぐって」

(明治書院「古典と現代」No19) P.15

(5) 村野四郎他五氏 座談会「現代詩をいかに教えるか」(日本書院「国語通信Ⅷ」) P.24

(6) 金子光晴「現代詩の難解性について」(同) P.2

## 2 詩に対する生徒(中学・高校)の意識の実態

(中学)

中 1		中 2		中 3		全 学 年	
男	女	男	女	男	女	男	女
小説 40	小説 33	小説 33	小説 38	小説 40	小説 43	小説 113	小説 114
記録 28	詩 23	記録 20	詩 24	詩 18	詩 24	記録 58	詩 71
民話 20	民話 16	詩 18	民話 17	民話 11	民話 21	詩 48	民話 54
詩 12	生徒作文 11	生徒作文 17	生徒作文 13	記録 10	生徒作文 8	民話 43	生徒作文 32
生徒作文 11	記録 9	民話 12	戯曲 11	生徒作文 8	評論 7	生徒作文 36	記録 21
俳句 6	文学史 8	評論 10	随筆 8	戯曲 8	文学史 7	評論 22	戯曲 17
評論 6	俳句 6	随筆 7	記録 8	俳句 8	俳句 6	文学史 20	文学史 17
文学史 6	短歌 5	戯曲 7	評論 5	文学史 7	随筆 4	戯曲 16	評論 14
随筆 2	評論 2	文学史 7	文学史 2	評論 6	記録 4	俳句 16	随筆 13
短歌 2	戯曲 2	短歌 4	短歌 0	随筆 3	戯曲 4	随筆 12	俳句 12
戯曲 1	随筆 1	俳句 2	俳句 0	短歌 2	短歌 4	短歌 8	短歌 9
その他 1	言語 1	言語 1	言語 0	その他 1	その他 2	言語 2	言語 2
言語 0	その他 0	その他 0	その他 0	言語 0	言語 1	その他 2	その他 2

以下は, 次のように実施した実態調査の結果とそれに対する簡単な考察である。

○目的——詩とくに詩の学習に対する生徒の興味・関心の実態を知り, 今後の指導のために役立てる。

○方法——中学生・高校生を対象として下記の各項目のアンケートをクラスごとに実施し, 学年別, 男女別にそれぞれ集計した。

○対象——名古屋大学教育学部附属中学および高校の生徒全員。各学年別, 男女別生徒数は次表の通り。

	中1	中2	中3	計	高1	高2	高3	計
男子	45	47	42	134	78	81	70	229
女子	39	42	45	126	56	54	53	163
計	84	89	87	260	134	135	123	392

○時期——1971年10月中旬

### (1) 国語科教材の種類(文章形態)に対する興味について

各文章形態の項目を示し, その中から, 各自の好むものを3つずつ選んで記入させた。数字はそれを選んだ生徒の人数で, その数の多いものから順序に並べたものが下の表である。

(高 校)

高 1		高 2		高 3		全 学 年	
男	女	男	女	男	女	男	女
小説62	小説53	小説60	小説48	小説63	小説53	小説185	小説154
民話31	民話33	随筆28	民話26	随筆34	随筆33	随筆92	民話77
随筆30	随筆18	民話28	戯曲24	評論30	(詩) 27	民話79	(詩) 71
記録29	(詩) 18	(詩) 27	(詩) 20	(詩) 28	民話18	(詩) 78	随筆62
(詩) 23	戯曲17	評論20	随筆17	民話20	評論9	評論72	戯曲43
評論22	文学史7	戯曲18	評論6	戯曲11	戯曲9	記録55	評論17
戯曲8	生徒作文7	記録17	生徒作文6	記録9	生徒作文3	戯曲37	生徒作文16
生徒作文8	俳句5	生徒作文9	俳句5	文学史4	文学史2	生徒作文18	文学史14
俳句7	記録4	その他8	文学史5	短歌3	短歌2	俳句16	俳句11
短歌4	短歌3	俳句6	記録2	俳句3	記録1	文学史11	短歌7
言語3	評論2	文学史5	短歌2	生徒作文1	俳句1	短歌10	記録7
文学史2	言語0	言語5	言語0	言語1	言語1	その他10	言語1
その他2	その他0	短歌3	その他0	その他0	その他0	言語9	その他0

全体的にみると、中学においては、詩に対する興味は小説に次いで第2位であり、高校においては、小説、民話、随筆に次いで第4位である。

男女別にみると、中学においては、男子が第3位、女子が第2位、高校においては、男子が第4位、女子が第3位で、中・高いずれも女子の方が男子に比べて興味が高いことを示している。

また、学年別にみると、中学・高校とも、それぞれ

学年が上級になるにつれて詩に対する興味は他に比べて次第に高くなっていく。ただし、中学3年から高校1年になると、男女ともそれぞれ、民話、随筆の次に下がっている。これは、中学と高校とにおいて教材の程度が変わるからであろうか。

しかし、随筆、評論、記録、戯曲などに比べてみると、学年別あるいは男女別による興味の差は少ないといえよう。

(2) 詩の鑑賞に対する興味の有無およびその理由について。

(中 学)

	中 1			中 2			中 3			全 学 年		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
興味がある	7(15) %	24(61) %	31(37) %	23(49) %	27(64) %	50(56) %	21(50) %	20(44) %	41(47) %	51(38) %	71(56) %	122(47) %
興味がない	13(29)	3(8)	16(19)	10(21)	6(14)	16(18)	4(10)	4(9)	8(9)	27(20)	13(10)	40(15)
どちらとも いえない	25(56)	12(31)	37(44)	14(30)	9(22)	23(26)	17(40)	21(47)	38(44)	56(42)	42(34)	98(38)
計	45(100)	39(100)	84(100)	47(100)	42(100)	89(100)	42(100)	45(100)	87(100)	134(100)	126(100)	260(100)

詩に対する生徒(中学・高校)の意識

(高校)

	高 1			高 2			高 3			全 学 年		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
興味がある	20(26) %	18(33) %	38(28) %	34(43) %	24(45) %	58(44) %	28(40) %	38(72) %	66(56) %	82(36) %	80(50) %	162(43) %
興味がない	24(31)	16(27)	40(30)	25(30)	12(22)	37(26)	18(26)	1( 2)	19(14)	67(30)	29(17)	96(23)
どちらとも いえない	34(43)	22(40)	56(42)	22(27)	18(33)	40(30)	24(34)	14(26)	38(30)	80(34)	54(33)	134(34)
計	78(100)	56(100)	134(100)	81(100)	54(100)	135(100)	70(100)	53(100)	123(100)	229(100)	163(100)	392(100)

中学・高校ともに、男子よりも女子の方が詩に対する興味の大きなことがはっきり認められる。「興味がない」の率は、女子が男子に比べて約半分である。高校の場合、学年が進むにつれて、男女とも、興味・関心の度合が大きくなってゆくことがよくわかる。高一において、「興味がない」が「興味がある」を上まわっていたものが、高三になると、大きく逆転していることは注目し得る。しかし、全体として「興味がある」が50%以下である実態についてはその理由をよく考えなくてはならない。

○詩の鑑賞に興味のある理由

(中学)

- ①「文章形式が簡潔で、人の心を適確に表わす」、「短いことばで複雑な内容を訴える」など。(26名)
- ②「詩を読むと気持ちが休まる」「おちつく」「さわやかな気持ちになる」「なんとなく楽しい」など。(25名)
- ③「作者の気持ちがよくわかり共鳴する」「自分の思っていることを訴えてくれるようだ」など。(23名)
- ④「ことばの美しさを感じずる」「リズム感が好き」など。(16名)
- ⑤「自分でも詩を書くから」「創作の参考になるから」など。(12名)
- ⑥「いろいろのことを考えさせられる」「情景を頭に浮かべたり、空想したりする」など。(11名)
- ⑦「一語一語について意味を考え理解していくことが楽しい」など。(11名)
- ⑧「小学校のころ作文の時間に詩を作ったり、よんだりした」「小学校のとき、自分の作った詩を先生にほめられた」など。(4名)

(高校)

- ①「短くて意味が深い」「濃縮されたことば」「親しみやすい形式」「ことばのちょっとしたひびき

の美しさをみつけるのが好きだから」「奥深い表現」など。(71名)

- ②「作者の感動が端的に伝わってくる」「詩の中に自分と同じような人間を発見できる」「自分自身の気持ちがうたわれているような気がする」など。(40名)
- ③「よい詩を読むと心がおちついてくる」「気分がすっきりする」「楽しい気持ちになる」など。(18名)
- ④「自分が詩を創作しようとしているから」「自分で詩をつくるのが好きだから」など。(14名)
- ⑤「リズムを味わうのが好き」「詩を口ずさむのが好き」「朗読が好き」など。(7名)

○詩の鑑賞に興味のない理由

(中学)

- ①「文が短くて理解することがむずかしい」「ピンとこない」「主題がつかめない」「感想がまとまらない」など。(26名)
- ②「おもしろくない」「教科書の詩はきれい」「自分で作るのはいいが、他人の詩は読む気がしない」「詩を読んでも役に立たない」など。(17名)
- ③「あまり詩を読んだことがない」「詩の本に接する機会が少ない」「小さい頃から詩を鑑賞することがなかった」など。(12名)
- ④「それぞれの詩によってわかったりわからなかったりして感じがちがう」など。(10名)

(高校)

- ①「意味がよくわからない」「理論的に理解できない」「抽象的な表現がピンとこない」「めんどくさくなる」「短詩形が苦手」など。(65名)
- ②「自分に詩のセンスがない」「感動しない」「自分の生活に関係がないような気がする」など。(32名)
- ③「授業でやる詩の鑑賞は好まない」「教科書にのっている詩はなじめない」「鑑賞は個人の主観だ

から、そろって勉強するのはむずかしい」「解釈をおしつけられるといやになる」など。(25名)

④「詩を多く読んだり、考えたりする時間がない」「詩に接することが少ない」など。(20名)

(3) 詩の創作に対する興味の有無について  
(中 学)

	中 1		中 2		中 3		全 学 年		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
興味がある	9(20) %	19(49) %	16(34) %	23(55) %	16(38) %	20(45) %	41(31) %	62(50) %	103(39) %
興味がない	21(47)	7(18)	12(26)	5(12)	12(29)	10(22)	45(33)	22(17)	67(26)
どちらともいえない	15(33)	13(33)	19(40)	14(33)	14(33)	15(33)	48(36)	42(33)	90(35)
計	45(100)	39(100)	47(100)	42(100)	42(100)	45(100)	134(100)	126(100)	260(100)

(高 校)

	高 1		高 2		高 3		全 学 年		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
興味がある	23(29) %	23(41) %	29(36) %	21(39) %	33(47) %	29(55) %	85(37) %	73(45) %	158(40) %
興味がない	31(40)	19(34)	31(38)	17(31)	18(26)	10(19)	80(35)	46(28)	126(32)
どちらともいえない	24(31)	14(25)	21(26)	16(30)	19(27)	14(26)	64(28)	44(27)	108(28)
計	78(100)	56(100)	81(100)	54(100)	70(100)	53(100)	229(100)	163(100)	392(100)

詩の創作に対する興味に関しても(2)の詩の鑑賞に対する興味の場合と大体同様の傾向が中学高校ともにみられる。鑑賞の興味に比較すれば、創作の興味は「ない」と答えたものが男女ともにかなり多い。

以上のことと関連して、次に、詩の創作経験の程度について、中学・高校それぞれの全体的傾向を示しておく。

	中 1・2・3			高 1・2・3		
	男	女	計	男	女	計
よく創作する	4(3) %	11(9) %	15(6) %	11(5) %	3(2) %	14(4) %
時折創作する	31(23)	48(38)	79(30)	44(19)	45(27)	89(23)
少しは創作したことがある	96(72)	65(51)	161(62)	150(66)	110(68)	260(66)
創作したことはない	3(2)	2(2)	5(2)	22(10)	5(3)	27(7)
計	134(100)	126(100)	260(100)	227(100)	163(100)	390(100)

中学生・高校生ともに、創作を実際にやっている者の数は予想以上に多い。中学・高校を通じて三割以上の者が「時折」または「しばしば」実際に自分で詩を作っているのである。

(4) 好きな詩人について

もっとも好きな詩人(外国の詩人もふくめて)一人または二人の名を書かせ、各学年別に、それを書いた生徒の人数の多かった順序に並べたのが下の表である。

詩に対する生徒(中学・高校)の意識

(中 学)

中 1		中 2		中 3		全 学 年	
高村光太郎	12	宮沢賢治	16	高村光太郎	23	高村光太郎	39
宮沢賢治	8	室生犀星	15	宮沢賢治	11	宮沢賢治	39
丸山 薫	3	ベルレーヌ	14	ゲーテ	11	ゲーテ	21
ゲーテ	3	ケストナー	8	室生犀星	5	室生犀星	15
島崎藤村	2	ゲーテ	7	ヘッセ	5	ベルレーヌ	15
石川啄木	2	島崎藤村	6	萩原朔太郎	4	島崎藤村	8
サトーハチロー	2	サトーハチロー	6	草野心平	3	大関松三郎	8
		大関松三郎	5	リルケ	3	サトーハチロー	8
		高村光太郎	4	サイモン	3	ケストナー	8
		石川啄木	8	島崎藤村	2	石川啄木	7
		丸山 薫	3	石川啄木	2	丸山 薫	6
		壺井繁治	3	大関松三郎	2	ヘッセ	6
		北原白秋	3	伊藤 整	2	北原白秋	4
		ハイネ	2	真壁 仁	2	萩原朔太郎	4
		ランボー	2	ハイネ	2	ハイネ	4
		北山 修	2				
(上記以外の詩人 7人)		(上記以外 6人)		(上記以外 13人)			
計 14人		計 22人		計 28人		全 64人	
「なし」または 無記入 53		「なし」または 無記入 25		「なし」または 無記入 27		「なし」または 無記入 105	

上記以外の詩人をあげると次の通りである。

与謝野晶子, 山村暮鳥, 三好達治, 佐藤春夫, 西  
条八十, 峠 三吉, 中原中也, 高田敏子, 藤原 定,

(高 校)

大木実, 三橋近子, 武者小路実篤, ブッセ, バイロ  
ン, シュトルム, リルケ, ホイットマン, ワーズワ  
ース。

高 1		高 2		高 3		全 学 年	
高村光太郎	21	高村光太郎	16	島崎藤村	13	高村光太郎	50
宮沢賢治	18	宮沢賢治	14	高村光太郎	13	宮沢賢治	34
島崎藤村	11	島崎藤村	7	北原白秋	12	島崎藤村	31
サトーハチロー	8	室生犀星	4	中原中也	10	サトーハチロー	17
ヘッセ	8	サトーハチロー	4	石川啄木	9	北原白秋	15
草野心平	5	ハイネ	4	三好達治	7	石川啄木	12
ベルレーヌ	5	ボードレール	4	室生犀星	6	中原中也	12
ゲーテ	5	リルケ	4	与謝野晶子	5	三好達治	12
ボードレール	4	石川啄木	3	武者小路実篤	5	ゲーテ	12
北原白秋	3	三好達治	3	サトーハチロー	5	室生犀星	10
高田敏子	3	北山 修	3	ゲーテ	4	ベルレーヌ	9
ブッセ	3	ゲーテ	3	ベルレーヌ	4	ボードレール	9
三好達治	2	萩原朔太郎	2	萩原朔太郎	3	ハイネ	8
与謝野晶子	2	佐藤春夫	2	北山 修	3	与謝野晶子	7
丸山 薫	2	中原中也	2	サイモン	3	草野心平	7
ハイネ	2	草野心平	2	宮沢賢治	2	北山 修	7

	高田敏子 2	ハイネ 2	ブッセ 6
	谷川俊太郎 2		萩原朔太郎 5
	寺山修司 2		高田敏子 5
	綾小路たすく 2		
	バイロン 2		
	ブッセ 2		
	ケストナー 2		
(上記以外の詩人 11人)	(上記以外 16人)	(上記以外 15人)	
全 27人	全 39人	全 32人	全 98人
「なし」または 無記入 57	「なし」または 無記入 52	「なし」または 無記入 17	「なし」または 無記入 126

上記以外の詩人をあげると次の通りである。

土井晚翠，蒲原有明，上田敏，千家元麿，中野重治，八木重吉，立原道造，山之口獏，落合恵子，矢沢幸，新川和江，清岡卓行，伊藤あんり，加藤介春，尾形亀之助，安井かずみ，コクトー，カロッサ，プーシキン，ツルゲーネフ，ジャム，ホイットマン等。

中学・高校ともに，「なし」と答えた生徒，または無記入の生徒の数が多く，全体の1/3以上になる。

このことは，上の表に示された詩人の大部分が，小学・中学・高校の教科書にのっている詩人であることと組み合わせると，生徒たちは，教材として接する以外に，自分で新しい詩や詩人を知る機会が，小説などに比べて少ないからであるといえるかもしれない。とりあげられた詩人の数は中学の64人に対して高校は98人と増え，その詩人も，教科書などにのっていない新しい現代詩人があげられるようになる。

(5) 好きな詩について

○好きな詩の有無

	中 1		中 2		中 3		全 学 年		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
好きな詩がある	14	20	21	31	24	33	59	84	143
ない	31	19	26	11	18	12	75	42	117
計	45	39	47	42	42	45	134	126	260

  

	高 1		高 2		高 3		全 学 年		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
好きな詩がある	37	32	46	30	38	45	121	107	228
ない	41	24	35	24	32	8	108	56	164
計	78	56	81	54	70	53	229	163	392

○好きな詩・印象に残っている詩

その詩の題名または詩の一節を記入させ各学年別に集計したものが下の表である。

(中 学)

	中 1	中 2	中 3	全 学 年
雨ニモ負ケズ (宮沢賢治)	8	雨ニモ負ケズ 16	雨ニモ負ケズ 4	雨ニモ負ケズ 28
人 に (高村光太郎)	6	落 葉 (ベルレーヌ) 5	あどけない話 (光太郎) 4	落 葉 7

詩に対する生徒(中学・高校)の意識

おおい雲よ (山村暮鳥)	2	虫けら (大関松三郎)	3	道程 (光太郎)	3	あどけない話	6
心の窓をあけよう (丸山 薫)	2	おおい雲よ	3	峠 (真壁 仁)	3	人 に	6
		山のあなた (ブッセ)	2	千曲川旅情の歌 (島崎藤村)	3	おおい雲よ	5
		てのひらの中の卵 (壺井繁治)	2	山 芋	3	山 芋	5
		山 芋 (松三郎)	2	冬が来た (光太郎)	3		
		人類の発達 (ケストナー)	2	グリマの死 (草野心平)	3		
				落 葉	2		
				ぼろぼろな蛇鳥 (光太郎)	2		
(上記以外 11篇)		(上記以外 13篇)		(上記以外 13篇)			
計	15篇	計	27篇	計	33篇	計	75篇

上記以外の詩を列举すると次の通りである。

藤村「椰子の実」「初恋」、晶子「君死に給ふことなかれ」、白秋「落葉松」、賢治「永訣の朝」、犀星「さびしき春」「小景異情」、光太郎「レモン哀歌」

「牛」、松三郎「水」「みみず」、朔太郎「浜辺」、達治「乳母車」、峠三吉「人間を返せ」、心平「富士山」、薫「北の春」、西条八十「蝶」、北川冬彦「雑草」、高田敏子「おふる」、ハイネ「空には星」。

(高 校)

高 1	高 2	高 3	全 学 年
千曲川旅情の歌 (島崎藤村)	雨ニモ負ケズ	君死に給ふことなかれ	道 程
8	6	6	16
雨ニモ負ケズ (宮沢賢治)	道 程	道 程	千曲川旅情の歌
8	5	6	15
落 葉 (ベルレーヌ)	レモン哀歌 (光太郎)	千曲川旅情の歌	雨ニモ負ケズ
6	4	5	15
道 程 (高村光太郎)	初 恋	レモン哀歌	初 恋
5	3	4	9
初 恋 (藤村)	山のあなた (ブッセ)	初 恋	君死に給ふことなかれ
3	3	3	8
永訣の朝 (賢治)	稲作挿話 (賢治)	山のあなた	落 葉
3	3	3	7
君死に給ふことなかれ (与謝野晶子)	千曲川旅情の歌	小景異情	山のあなた
2	2	3	7
北の海 (中原中也)	落葉松 (北原白秋)	椰子の実 (藤村)	レモン哀歌
2	2	2	7
わたしの耳は貝の殻 (コクトー)	永訣の朝	旅 上 (萩原朔太郎)	永訣の朝
2	2	2	5
	小景異情 (室生犀星)	太郎を眠らせ (三好達治)	小景異情
	2	2	5
		艸千里浜 ( " )	椰子の実
		2	4
		北の海	北の海
		2	4
			わたしの耳は貝の殻
			4
(上記以外 13篇)	(上記以外 21篇)	(上記以外 29篇)	
計	22篇	計	42篇
		計	95篇

上記以外の詩の一部を列举してみると、次の通りである。

藤村「ひびきりんりん」「春は来ぬ」、晚翠「荒城の月」、暮鳥「おおい雲よ」、朔太郎「ところをば」、

中也「汚れちまった悲しみに」、光太郎「牛」「あの頃」「冬が来た」、松三郎「虫けら」、達治「つばめ」「乳母車」「甃の上」「ヨット」、心平「冬眠」「ぐりまの死」「富士山」、金子光晴「くらげの唄」、薫「



未来へ」, 真壁仁「峠」, サトーハチロー「かあさんのくせ」, 北山修「赤い橋」, 心平「つんばのりる」, 実篤「われは鉄なり」「進め進め」, 賢治「和風は」, ハイネ「空には星」, ゲーテ「告白」, ランポー「別れ」, ゲーテ「ミニヨン」, ベルレーヌ「巷に雨の降るごとく」, ブラウニング「春の朝」等。

上記の表中の詩をみると, 中学・高校とも, 大半が近代詩の古典として扱われ, 過去から現代に至るまで国語教科書にのせられている作品である。こうしてみると, 生徒が詩に接し, 詩に親しむ機会は学校の授業が中心で, それ以外には現代詩はまだ身近なものになってはいないのであろうか。

(6) 詩の形式に対する興味について

(中 学)

	中 1		中 2		中 3		全 学 年		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
文語詩が好き	9	11	11	12	3	8	23(17) %	31(25) %	54 (21) %
口語詩が好き	26	21	23	22	35	35	84(63)	78(62)	162 (62)
どちらとも いえない	10	7	13	8	4	2	27(20)	17(13)	44 (17)
計	45	39	47	42	42	45	134(100)	126(100)	260(100)

  

定型詩が好き	2	3	6	5	5	4	13(10) %	12( 9) %	25 (10) %
自由詩が好き	39	29	36	30	36	39	111(83)	98(78)	209 (80)
どちらとも いえない	4	7	5	7	1	2	10( 7)	16(13)	26 (10)
計	45	39	47	42	42	45	134(100)	126(100)	260(100)

(高 校)

	高 1		高 2		高 3		全 学 年		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
文語詩が好き	8	3	14	5	11	12	33(14) %	20(12) %	53 (13) %
口語詩が好き	66	49	63	45	56	39	185(81)	133(82)	318 (81)
どちらとも いえない	4	4	4	4	3	2	11( 5)	10( 6)	21 ( 6)
計	78	56	81	54	70	53	229(100)	163(100)	392(100)

  

定型詩が好き	15	10	17	4	17	11	49(21) %	25(15) %	74 (19) %
自由詩が好き	59	42	60	43	48	38	167(73)	123(76)	290 (74)
どちらとも いえない	4	4	4	7	5	4	13( 6)	15( 9)	28 ( 7)
計	78	56	81	54	70	53	229(100)	163(100)	392(100)

文語詩よりは口語詩を, 定型詩よりは自由詩を好むのは現代において当然の結果とも考えられるが, それにしても, 文語詩の方を好むものが中学において20%高校において13%あり, また定型詩の方を好むものは中学で10%, 高校で約20%ある。いずれも予想以上の数字であった。文語定型詩の古典的なり

ズムに少なからず心をひかれるためかと思う。男女による差はあまり認められない。

(7) 好きな調子(韻律)および内容の傾向について

○ どんな調子や感じの詩を好むか

生徒に自由に書かせたので, さまざまなことばで

表現されているが、同じ趣旨のものをそれぞれまとめ、いくつかの類型にまとめ、数の多い順に並べてみた。数は全学年を通じての人数である。

(中学)

- ①「静かで落ちつきのある調子」「静かでさびしい感じ」など。(116名)
- ②「力づよい調子」「はげしい感じ」など。(70名)
- ③「明るい感じ」「軽快な調子」など。(44名)
- ④「静かな調子の中に力づよい感じをふくむ」など。(21名)
- ⑤「もの悲しい感じ」「重苦しい感じ」など。(14名)

(高校)

- ①「静かで落ちつきのある感じ」「すなおでやさしい感じ」「ゆったりした調子」「たんたんとした調子」など。(108名)
- ②「軽快で美しいリズム」「明るく流れるような調子」など。(81名)
- ③「力づよい調子」「はげしいあるいはさびしい感じ」など。(65名)
- ④「静かな中に力づよさ、激しさが秘められているような感じ」など。(48名)
- ⑤「ものさびしい調子」「暗い感じ」「ゆううつな感じ」「もの悲しい調子」など。(26名)

大きく分類して、中学・高校とも以上のようになったが、中学・高校に共通して圧倒的に多いのは、「静かな感じ」である。これは、日常のあわただしさ、めまぐるしさに対して、詩によって人間らしい落ちついた気持を得たいという心境のあらわれであろうか。

とくに高校生になると、複雑で微妙なさまざまな感じや調子を求めている。

たとえば、「次第にもりあがってくる絶叫、そしてその次にくる静寂さ」「やさしさと哀しさ、そして力づよさのミックスしたもの」「静かで悲しい中に希望をもとうとしている感じ」「静の中に動を感じさせるリズム」「静かで重々しい中に鮮明なひびきのあるような調子」「なめらかであるが、どこかピンと糸を張ったような感じ」「静かで、その内奥に激しい魂の主張を秘めた感じ」「静かでありながら、どこことなく軽快なリズム」……等々、あげてゆけばきりがなが、高校生たちの詩に求めているものがいったいなんであるか、いろいろと考えさせられるのである。

○どんな内容・傾向の詩を好むかについて

(中学)

- ①「自然の美しさ、偉大さ」など。(135名)
- ②「人生」「社会」「思想」など。(84名)
- ③「愛情」「友情」など。(63名)

- ④「旅情」(31名)
- ⑤「生活」「労働」など。(17名)
- (高校)
- ①「自然」「自然の雄大さ」など。(154名)
- ②「愛情」「恋愛」「失恋」「親子の愛情」「友情」など。(104名)
- ③「旅情」(74名)
- ④「人生」「社会」「思想」など。(70名)
- ⑤「生活」「労働」など。(54名)
- ⑥その他(30名)

「詩の調子・感じ」にさまざまなものを求めているように「詩の内容」に対しても、青年らしい純粋さで、さまざまな期待をこめているようである。「自然の、人間の科学では理解しえない神秘的部分をうたった詩」「恋愛とか失恋とかそのときの自分の悩みがその詩にあてはまっていたり、なんとなく心に感じさせる何ものかのある詩」「自分の心の眼を開いてくれるような詩」「自分の心の奥にあるものをうまくことばに表わしているような詩、それが社会への反発や社会の矛盾を訴えたものなら最高によい」「社会・人間について現代の目で見つめているもの、戦争や現代社会のゆがみ、青春の悩みなどをえがいた詩」など。(以上高校生)。「自然を愛することを強く主張した詩」「人の愛の美しさ、暖かさ、自然のもつ素直な美しさを表わした詩」「人間社会のみにくいうずの中での人間本来の姿(愛情)を表わした詩」など。(以上中学生)

#### (8) 詩の授業に対する感想・意見について

(中学)

- ①「いろいろな詩を紹介してほしい」「世界のさまざまな詩を聞かせてほしい」「外国の有名な詩をとりあげてほしい」「教科書の詩よりもっとなじみやすいものを習いたい」など。(59名)
- ②「詩は授業で扱ってほしくない、感動がうすれるから」「理屈っぽくやってほしくない」「感覚的にやってほしい」など。(30名)
- ③「詩を作らせてほしい」「詩の作り方を教えてほしい」「一人一人自分の作った詩を発表しあい、おたがいに感想を話しあいたい」など。(15名)
- ④「詩人についてくわしく知りたい」「同じ詩人の作品をいくつかやってほしい」「詩の鑑賞の仕方理解の仕方を教えてほしい」「詩が理解できるようにくわしく、ていねいに説明してほしい」など。(13名)
- ⑤「詩の時間をふやしてほしい」「詩の時間は楽しい」など。(11名)
- ⑥「それぞれ自分の好きな作品を全員の前で発表しそれをみんなで検討するとよい」「自由に自分の

好きな詩を選んでレポートにまとめたい」「詩に対する他の人の感じ方を知りたい」など。(10名)

- ④「詩の朗読をきくとすがすがしい気持ちになる」  
「感情をこめて読むようにしたい」「朗読を味わいたい」など。(8名)

(高校)

- ①「教科書にとらわれず、いろいろの種類のと  
りあげてほしい」「無名の人の作品をやりたい」  
「最近の現代詩人のものを」「新しい感覚のものを」  
「外国の詩を」「戦時中の詩を」「身近な  
楽しいものを」「詩のプリントをもらおうれい  
しい」など。(86名)
- ②「授業で先生が意見をおしついたり、理屈っぽい  
解釈をやるのはおもしろくない」「最初の印象を  
大切にしたい」「個人個人の感情を尊重してもら  
いたい」など。(61名)
- ③「おたがいに感想を話し合い、みんなの感想・意  
見を聞きたい」「生徒の発表の機会を多くしてほ  
しい」「グループで研究し発表するのがよい」な  
ど。(22名)
- ④「生徒が自分の得意な詩を選んで発表するよう  
にしたい」「詩のレポートは楽しかった」など。  
(21名)
- ⑤「生徒の創作を指導してほしい」「生徒の創作の  
詩をとりあげて鑑賞・批評するとよい」など。  
(19名)
- ⑥「詩の意味がわかるように時間をかけてゆっく  
りやってほしい」「ポイントがつかめない」など。  
(18名)
- ⑦「作者・時代・社会等の解説をくわしくしてほ  
しい」など。(13名)
- ⑧「朗読をしっかり指導してほしい」「テープやレ  
コードなどを利用してほしい」など。(8名)

詩の学習に対する生徒の感想・意見を類別してみ  
ると以上ようになる。これをみてわかることは、中学  
高校とも、きわだって多いのが、第一に「いろいろ  
の詩を紹介してほしい」というもの、第二に「理屈っ  
ぱい解釈をしてほしくない」というもの、この二つの  
意見である。考えてみると、この二つの類の意見は  
詩の学習指導における根本的な問題点の指摘であ  
るといえよう。他の類の意見も大切ではあるが、そ  
れらはこの二つに付随する技術的なことがらとみ  
てよいと思う。要するに、詩の学習指導にあたって  
、詩教材はどのように選択し編成すべきかという  
こと、詩の鑑賞を成り立たせるには教材をどのよ  
うに扱うべきかということである。生徒達のあげた  
これらの意見や要望に、いかにこたえるかという  
ことが、とりもなおさず、詩の指

導にあたる教師にとって、本質的な課題であるとい  
えよう。

### 3 レポート指導を通しての感想

詩の指導の目的とは何であろうか。私には適切に表  
現できないが、生徒達をして詩を読んだり創ったり  
させることにより、純粹に人間らしい感情をよびさ  
ませることであり、美と真実を直感しうる感覚を  
磨かせ、また生きるよろこびや力をえさせること  
であると思う。このことは人間性喪失が問題とさ  
れる現代において、とくに重要な意義をもつ。「教  
育の現代的課題に即応する詩の指導とは、究極に  
おいて、現代という人間疎外の状況を主体的な感  
情と感受性と創造力を核とする詩(言語)によっ  
て克服していくという人間回復の仕事にあるとい  
えよう」。私達は詩の指導にあたって、たえず指  
導の目的を自覚し、その目的に即してすぐれた  
詩教材を選び適切な扱い方をしなくてはならな  
い。

さて、次に私のささやかな指導例をあげて、詩  
に対する生徒の関心や態度について述べてみたい。  
以下は私が46年度1学期に、名大付属中学3年生  
および同高校3年生の詩の学習指導の中で宿題と  
して書かせたレポートについてのものである。レ  
ポート作成にあたっては、生徒全員がそれぞれ、  
約一ヶ月の期間内にできるだけ多くの詩に接し  
て、その中から自分にとって最も気に入った一  
編を選び、心ゆくまで吟味した上で、その詩の  
感想、選択の理由、研究事項などを自由に書  
くよう指示した。原稿の枚数は制限せず、また  
提出期限もなるべく催促せず、各自納得のい  
くものが書けた時に、提出させるようにした。約  
一ヶ月半の後、一応全員の提出が終わった。提  
出されたレポートは、中3では400字原稿用紙  
で平均1枚半程度、高3では平均4枚程度のも  
のであった。中3の方には、詩の鑑賞やレポー  
トの書き方になれていないためか、ありきたり  
の感想や内容を教訓的にとらえようとする傾向  
がかなりあったが、中3・高3とも全体的にみ  
て、個性的に書けたものが多かった。とくに高  
3の方は自分の体験や心境を盛りこみ、実感の  
こもった感想が予想以上に多かった。レポート  
の対象になった詩人および詩を整理してみると、  
中3(生徒数87名)では詩人35人、詩37編、  
高3(生徒数123名)では詩人40人・詩72編  
であった。〔詩人名および詩の題名を、選んだ  
生徒数の2乃至3名以上あったものだけあげて  
みる。( )内は選んだ生徒数である。〕

○詩人〔中3〕高村光太郎(12)、室生犀星(8)、  
大関松三郎(6)、宮沢賢治・草野心平(各4)島崎  
藤村・萩原朔太郎・三好達治・真壁仁・ヘッセ  
(各3)、〔高3〕高村光太郎(20)、三好達治(11)、  
中原中

也(9), 北原白秋(8), 島崎藤村・石川啄木・萩原朔太郎・武者小路実篤(各6), 与謝野晶子・室生犀星・草野心平(各5), 上田敏・千家元麿(各4), 金子光晴(3)。

○詩〔中3〕松三郎「山芋」「虫けら」(各3), 藤村「潮音」, 光太郎「レモン哀歌」「あどけない話」「牛」「冬が来た」, 犀星「朝の歌」, 賢治「雨ニモ負ケズ」, 達治「つばめ」, 仁「峠」等(各2), 〔高3〕晶子「君死に給ふことなかれ」, 中也「汚れちまった悲しみ」, 「レモン哀歌(各4)」, 光太郎「あの頃」, 達治「艸千里浜」(各3), 啄木「果てしなき議論の後に」, 光太郎「樹下の二人」「人に」「道程」「牛」, 心平「聾のるりる」等(各2)。

以上にあげられた詩人および詩をみると, 大半が授業で習ったり紹介されたりしたものとみてよい。しかし, 全体的にみると, 既習の詩をとりあげたものは, 中3で約25%, 高3で約15%である。それ以外は本人にとって新しい詩を選んでおり, 新しい現代詩人のものが相当数選ばれている。内容的には教科書にのっていない詩を扱ったレポートの中に, 個性的でいきいきした感想が多かった。

次に, 具体的にレポートの中から生徒のこぼしを引用して生徒の鑑賞態度をみてみよう。ある生徒(高3女)は, 自分自身の恋愛の体験について書き, その気持にあてはまるような詩を苦心して探しあてたといって白秋の「断章」について感想を書き, 最後に次のようにつけ加えている。「詩を読んでいて思ったことを少し書いておきます。いわゆる『文学』として, 『よ

い詩』といわれるものもいいけれど, ある人にとって『よい詩』というのは, その人が, その詩にうたわれている心, あるいは状態(情景)に浸ることができる詩ではないだろうかということ。それと詩は何回も何回も読むべきだということです。」また, 西脇順三郎の「旅人かえらず」について10数枚の長いレポートを書いた生徒(高3女)は「この難解だといわれる詩に自分なりにとりくんだことによって, 現代詩に対して自信らしいものがもてるようになった」と書いていた。具体例をあげる余裕がないが, 実感にあふれた感想が多く, 中には創作詩を添えて提出したものもあった。教室での学習中には見られないような, 生徒独自の関心や鑑賞態度が発揮されていて, 教師の立場からも詩の鑑賞のあり方を学ぶことができ有意義であった。今後は教室での学習においても, 生徒の主体性のある活発な発表や話し合いを展開させるようにしたいものと思う。

「詩の学習では, 何よりもまず学習経験そのものが学習者にとって一つの大きな感動体験とならない限りは学習の第一主義を欠くことになろう。つまり学習そのものが詩的なものでありたい。理想をいえば学習を詩にまで高めることが望ましいのである。」<sup>(2)</sup>

〔注〕(1) 安藤操「詩教育の目ざすものと教材編成の原則」(日本文学教育連盟編「小学校国語教科書の詩」有信堂) P.36

(2) 分銅惇作「詩の学習指導の問題点」(筑摩「国語通信」№90) P.17